



JICA青年海外協力隊員として1995年から98年まで、アフリカ南部のジンバブエで野球を指導した。野球部員だった大学時代、この国で野球を教える隊員をテレビで見たのがき

JICA
だより



ジンバブエ
(1995～98年派遣)
堤尚彦さん(52)
浅口市

野球指導者 原点ここに

導していた。サッカーが一番人気のこの国で、野球についての報道を見ることはない。野球は裕福な一部の白人が道楽のように楽しん

でいる程度だった。私の拠点となったのは第2の都市ブラワヨ。子どもたちが待つ小中高校や大学での指導が中心で、1校30

っかけだった。「お金、道具、グラウンドがない。だからそんな問題ではない。次に来てくれる日本人がいないのが問題なんだ」との言葉が心に刺さったのだ。私の赴任前は協力隊員3人が首都ハラレを中心に指



指導したブラワヨの選抜チームの小学生たちと。最後列左端が筆者

300人をえられた。

相手に、週25校回ることもあった。皆初心者なので、球を遠くに投げたり、打ったりして楽しさを知らず、とらうことから始めた。併せてルールも教えて、8回の指導で試合ができるよう目指した。ただ、試合となると予想外の展開も。野手が飛んできたゴロを足で蹴って一塁に「送球」したり、塁間で野手に挟まれた走者が校舎の裏まで逃げたり…。私も指導者として大いに鍛

導で試合ができるよう目指した。ただ、試合となると予想外の展開も。野手が飛んできたゴロを足で蹴って一塁に「送球」したり、塁間で野手に挟まれた走者が校舎の裏まで逃げたり…。私も指導者として大いに鍛

その後、この国の代表監督をはじめ、ガーナやインドネシア代表の指導にも当たらせてもらった。今は浅口市のおかやま山陽高で監督をしている。こうした野球指導者の原点がジンバブエにあるのは間違いない。